

介護テクノロジー 導入前診断

組織課題可視化 × テクノロジー適合分析
× 投資対効果レポート

SAMPLE 成果物

※本資料は架空施設を想定したサンプルです。
実在する施設・職員データではありません。

PREPARED FOR

サンプル介護老人保健施設 あおぞら苑様

作成日

2026年〇月

レポート種別

導入前診断

ページ数

全12ページ

REPORTED BY

Voicia

医療・介護現場の生産性向上を支援する
伴走型DXブランド

本診断の構成：組織課題可視化アンケート / Silent Signals分析 / テクノロジー適合分析
/ 投資対効果レポート / KPI設計 / 導入ロードマップ

01 POSITIONING / 本診断の位置づけ

これは"不満調査"ではなく、 介護テクノロジー導入前の**現在地診断**です

本診断は職員の不満を集めることが目的ではありません。現場の声をもとに、どこに課題があり、どのテクノロジーを導入すべきかを整理し、補助金申請前に現場課題・業務負担・投資効果を可視化します。「導入ありき」ではなく、組織課題から必要な機器を逆算する判断材料です。

Voiciaの3つの分析アプローチ

定量データだけでも、自由記述だけでも見えないものを、3層で捉える。

01

APPROACH 01

組織心理・行動科学に基づく 深層分析

心理的安全性・改善実感・離職予兆など、行動科学の指標で組織状態を構造的に読み解きます。

02

APPROACH 02

声なき声 Silent Signals の可視化

未回答・中間回答・短文コメントなど、表に出ない声を組織からのメッセージとして言語化します。

03

APPROACH 03

テクノロジー適合と 投資対効果の整理

現場課題から逆算して導入すべき機器を整理し、補助金活用後の投資対効果を試算します。

02 EXECUTIVE SUMMARY / エグゼクティブサマリー

あおぞら苑（架空）の現在地と、最初に着手すべきテーマ

DIAGNOSIS OVERVIEW / 調査概況（サンプル値）

対象職員	回答数	回答率	未回答
80 名	52 名	65.0 %	28 名

職員定着不安スコア	改善実感スコア	記録・申し送り負担	夜勤不安
注意	低め	高	中～高

導入優先領域：記録支援 / 見守り / 情報共有

CORE FINDING / 中核課題

課題は"人が足りないこと"だけではなく、
声・情報・業務負担が循環していないこと。

現場には相談できる土台がある一方で、出された声が改善に届く実感が弱く、記録・申し送り・夜間対応に負担が集中。テクノロジー導入は"省人化"ではなく、"声と情報の循環"を取り戻すために設計します。

最初に着手するテーマ

01

記録・申し送り時間の削減

残業・転記負担の解消 / 記録品質の標準化

02

夜間巡視・見守り負担の軽減

定時巡視の最適化 / 異常検知の早期化

03

職員の声への返答ルール整備

改善実感の回復 / 心理的安全性の底上げ

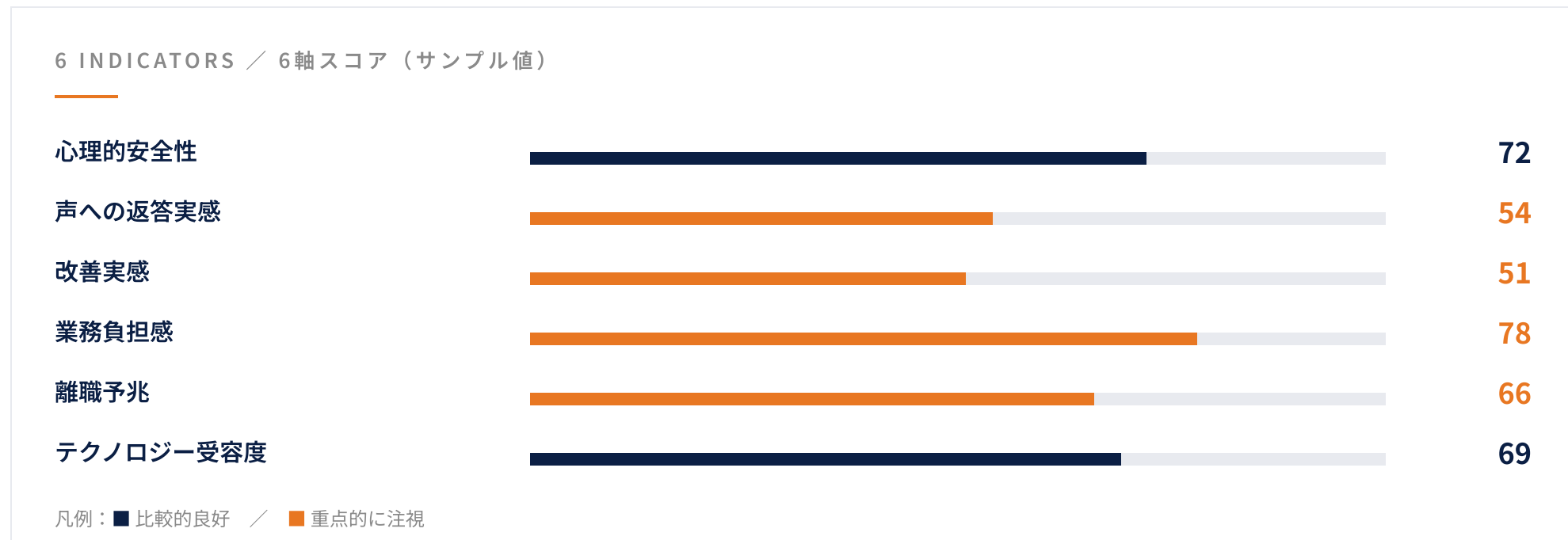
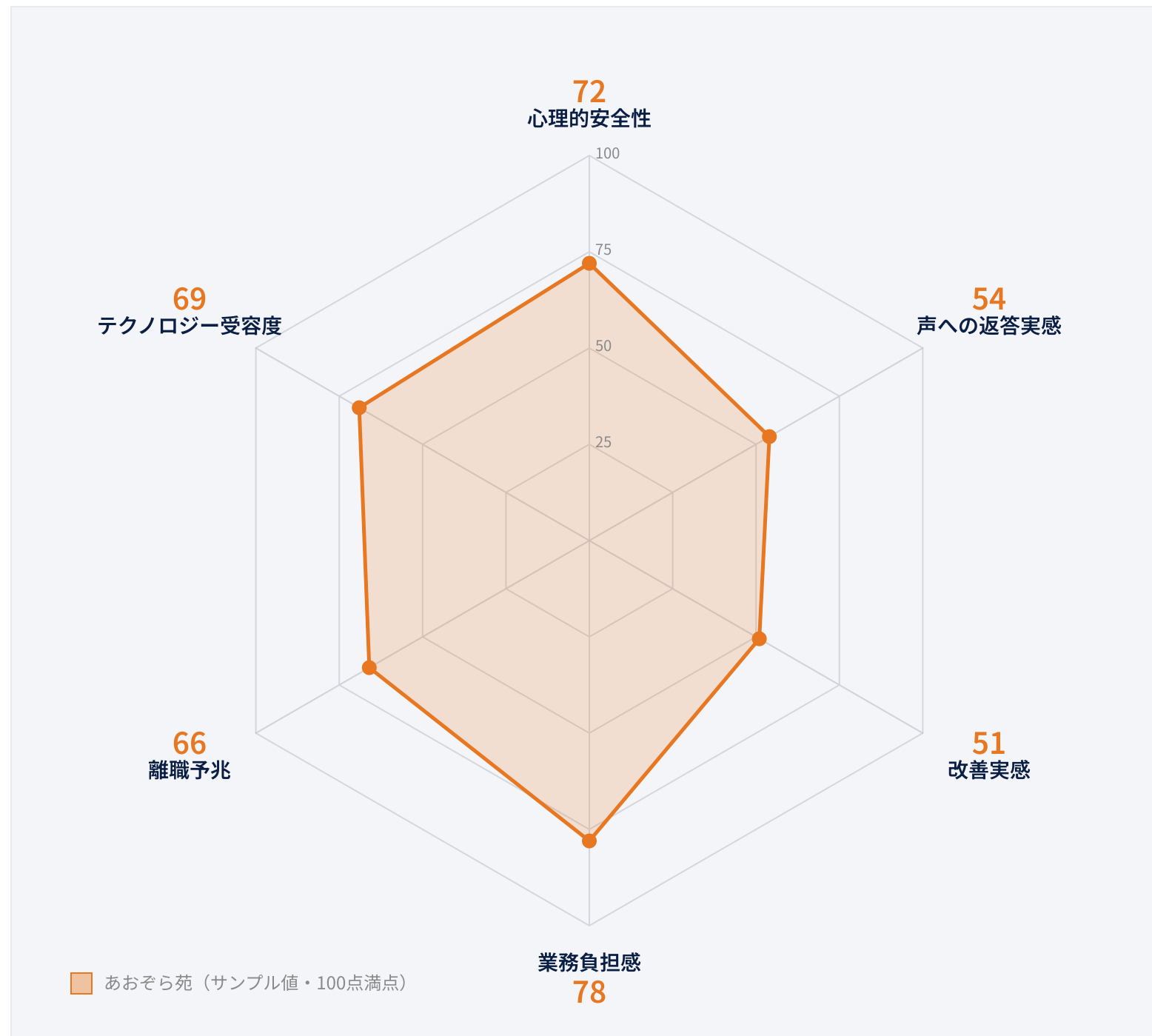
04

導入後のKPI設計

"導入して終わり"にしない効果測定の仕事

6つの指標で組織状態を可視化する

心理的安全性から離職予兆まで、現場の状態を構造的に捉える6軸スコア（100点満点／サンプル値）。



READING / Voicia担当からの読み解き

相談できる土台はあるが、
"声が改善につながる実感"が弱い。

心理的安全性（72）・テクノロジー受容度（69）は比較的良好。一方、業務負担感（78）が高く、声への返答実感（54）と改善実感（51）が低い。記録・申し送り・夜間対応の効率化が優先課題です。

04 SILENT SIGNALS / 声なき声の可視化

表に出た声の奥に、まだ言語化されていないサインがある

Voiciaは未回答・中間回答・空欄を"沈黙"ではなく"組織からのメッセージ"として読み解きます。

SIGNAL TYPES / 4つの分析対象

28名

未回答

業務多忙・諦め・期待値低下が背景にある可能性

14件

中間回答・
「どちらともいえない」

判断保留・心理的距離のサインの可能性

9件

空欄・
無回答コメント

記述するエネルギーが残っていない状態のサイン

17件

短文・一語コメント

言語化されていない負担・疲労の表出

READING / 読み解きの視点

"声が出ないこと"も、組織からの重要なメッセージ。

- 未回答は「単なる未提出」ではなく業務多忙・諦めの可能性
- 中間回答は明確な不満ではなく判断保留や心理的距離
- 短文回答は言語化されていない負担や疲労
- 空欄は「書くエネルギーすら残っていない」サイン

放置した場合に起こりうるリスク

RISK 01

サイレント退職

兆候が表に出ないまま離職判断が静かに進行する

RISK 02

中堅職員の燃え尽き

負担集中が長期化し、現場リーダーが疲弊する

RISK 03

改善活動への諦め

「言っても変わらない」が現場の前提になる

RISK 04

テクノロジー導入への抵抗感

"また現場が増やされる"という心理が先に立つ

"導入ありき"ではなく、**組織課題から**機器を逆算する

現場で出てきた課題と原因を起点に、適合するテクノロジーと期待効果を整理します。(サンプル)

組織課題	想定される原因	推奨テクノロジー	期待効果
01 記録時間が長い 残業・転記負担に直結	手入力・転記が多く、二重入力や紙併用も発生	音声入力／記録支援AI／介護ソフト連携	残業削減、記録品質の標準化、共有のスピード向上
02 申し送りが不十分 伝達漏れ・判断遅延	情報が紙・口頭・複数ツールに分散している	インカム／情報共有ツール／チャット連携	伝達漏れ削減、判断スピード向上、初動の精度向上
03 夜間巡視負担が高い 夜勤者の疲弊と不安	定時巡視中心で、異常検知が訪室依存になっている	見守りセンサー／カメラ／ナースコール連携	巡視負担の軽減、初動対応の改善、夜勤不安の低減
04 移乗負担が高い 腰痛・離職リスク	身体介助の負荷が特定職員に集中している	移乗支援機器／リフト	腰痛予防、職員定着の下支え、ケア品質の安定
05 シフト作成が属人的 管理者負担集中	希望休・夜勤配置の調整が手作業で続いている	シフト最適化ツール	作成時間削減、配置の公平性、管理者の負担軽減

本表は架空施設の課題に基づくサンプルです。実際の選定は、現場ヒアリング・デモ・既存システムとの整合性を踏まえて整理します。

06 PRIORITY MATRIX / 導入優先順位の整理

「導入しやすさ × 経営インパクト」で順序を決める

限られた予算と人員のなかで、どこから着手するかを4象限で整理します（サンプル）。



CONCLUSION 01 / 最優先

記録支援 / インカム・情報共有 / 見守りセンサー

効果が現れやすく、補助金対象になりやすい3領域。現場負荷の循環を最初に止める。

CONCLUSION 02 / 次点

シフト最適化 / 移乗支援機器

最優先群の運用が安定したのち、第2フェーズで導入を検討。

CONCLUSION 03 / 慎重検討

大規模システム刷新 / 複数機器の一括導入

現場の受容度・運用設計が整ってから、段階的に検討するのが望ましい領域。

※プロット位置・優先順位はサンプルです。実施設では現場ヒアリング・デモを踏まえて再評価します。

07 ROI REPORT / 投資対効果の見直し

補助金活用後の実質負担と年間改善効果の試算

架空条件のサンプル試算です。実際は施設規模・職員体制・採択状況・運用定着度により変動します。

INVESTMENT CONDITIONS / 投資条件 (サンプル)

総事業費	8,000,000 円
補助率 (想定)	4/5
補助金見込	6,400,000 円
法人実質負担	1,600,000 円

ANNUAL BENEFIT / 年間改善効果 (サンプル)

記録時間削減	1,200,000 円/年
残業削減	900,000 円/年
夜間巡視負担軽減	700,000 円/年
離職抑制・採用コスト削減	800,000 円/年
年間合計メリット	3,600,000 円/年

※ 生産性向上加算等の取得可能性は別途要確認

PAYBACK PERIOD / 投資回収期間の見直し

実質負担 1,600,000円 ÷ 年間効果 3,600,000円

投資回収期間の見直し (サンプル試算)

ESTIMATED PAYBACK

約5.3 か月

上記は架空条件による試算 (サンプル) です。実際の効果は施設規模、職員体制、導入機器、補助金採択状況、運用定着度により変動します。

補助金採択・費用削減・収益改善を保証するものではありません。

"導入して終わり"にしないための効果測定指標

KGI

人が本来向き合うべきケアに集中できる時間を増やす

CATEGORY 01

夜勤オペレーション

- 定時巡視回数
- 異常検知から訪室までの時間
- 夜間転倒・ヒヤリハット件数
- 夜勤不安スコア
- 夜勤帯の業務密度

CATEGORY 02

業務効率化

- 記録時間
- 申し送り時間
- 残業時間
- 重複入力件数
- 情報共有のリードタイム

CATEGORY 03

人材・組織

- 職員満足度
- 改善実感
- 離職率
- 有給取得率
- 管理者負担感

CATEGORY 04

経営

- 実質負担額
- 年間改善効果
- 投資回収期間
- 加算取得可能性
- 稼働率

導入前に **基準値（ベースライン）** を取り、3か月後・6か月後に **同じ指標で再測定** することで、改善の実感が見える化します。

3つのステップで、現場と一緒に着実に進める

Voiciaは伴走型で、現場負担を増やさずに導入から定着までを一緒に進めます。



10 DELIVERABLES / 納品物と活用場面

現場・経営・補助金、それぞれの会議でそのまま使える成果物

PART A / 納品物 (全6点)

01 組織課題可視化レポート

6軸スコア+自由記述の構造的整理

03 介護テクノロジー適合分析

課題から逆算した機器候補と優先順位

05 KPI設計シート

夜勤/効率/人材/経営の4分類で整理

02 Silent Signals分析

未回答・中間回答からの組織サイン読解

04 投資対効果レポート

実質負担・年間効果・回収期間の試算

06 導入ロードマップ

3ステップの段階別タスクとスケジュール

FORMAT / 納品形式

- PDFレポート (A4横/本資料相当の体裁)
- 集計データ (Excel)
- KPI測定用テンプレート
- 経営層向け報告会1回 (オンライン/対面)

PART B / 活用場面

01 経営会議

投資対効果と優先順位を経営層に共有

02 生産性向上委員会

委員会の検討資料、議事録ベースとして

03 補助金申請前の整理

課題整理・必要性根拠の言語化に活用

04 機器選定会議

複数機器の比較検討時の判断軸として

05 職員説明

導入趣旨と現場への効果を平易に共有

06 導入後の効果測定

3か月後・6か月後の同一指標での再測定

一つの診断レポートが、6つの会議体・場面で繰り返し活用される。
"作って終わる資料"ではなく、施設の判断材料として残ります。

補助金情報の確認だけで終わらせず、 導入前の現場課題整理から始めませんか。

介護テクノロジー導入支援事業では、機器を選ぶ前に、自施設の現場課題・職員の声・業務負担・導入後の効果測定を整理することが重要です。

Voiciaは、組織課題可視化アンケートを起点に、導入すべき介護テクノロジーと投資対効果が見える化し、施設が納得して導入判断できるよう、現場に寄り添って支援します。

CONTACT / 導入前診断のご相談

導入前診断について
相談する

WEB

voicia.jp

お問い合わせ：info@voicia.jp

NEXT STEPS

STEP 01

サービス内容のご案内
(30分/オンライン)

STEP 02

診断設計の打ち合わせ
(施設状況のヒアリング)

STEP 03

診断実施・レポート納品
(経営層への報告会含む)